

第2回生駒市総合計画審議会（全体会）

開催日時 平成30年4月17日（火）13時30分～15時30分

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員）中川会長、久会長代理、高取委員、森岡委員、福谷委員、中谷委員、
楠下委員、谷中委員、藤尾委員、中山委員、村上委員、吉田委員

（事務局）増田市長公室長、坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、
日高秘書企画課主幹、片山秘書企画課員、市川いこまの魅力創造課長

欠席者 なし

議事内容

1 開会

2 案件

- （1）団体ヒアリングについて
- （2）第6次総合計画策定に係る基礎調査について
- （3）将来都市像（案）について
- （4）基本構想（素案）・基本計画 序編（骨子案）について

3 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただいまから「第2回生駒市総合計画審議会」を開催します。開会にあたり、増田市長公室長よりご挨拶申し上げます。

【事務局】 （増田市長公室長挨拶）

【事務局】 （資料確認）

2 案件

- （1）団体ヒアリングについて

【中川会長】 それでは案件（１）「団体ヒアリングについて」事務局から報告をお願いします。

【事務局】 （資料１－１、資料１－２について報告）

【中川会長】 この件について、意見等はあるか。

【各委員】 （意見等なし）

（２）第６次総合計画策定に係る基礎調査について

【中川会長】 続きまして案件（２）「第６次総合計画策定に係る基礎調査について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料２について説明）

【中川会長】 この件について、意見等はあるか。

【久会長代理】 今回は全体についてまんべんなく分析していただいているが、次のステップとして計画に落とし込んでいくとなると、より戦略的に分析していく部分や要因をしっかりと分析していく部分が必要になってくる。例えば、生駒市は年少人口比率が高い反面、高齢化率も高い。これは地域ごとに差があるからだと思う。新しい住宅地では子育て層が多く、オールドニュータウンでは高齢化が進んでいる。地域ごとに分析していくと見えてくるものがあると思う。

【森岡委員】 ICTやIoTについて書かれているが、市として企業が利用しやすい環境をどのように構築していくかが重要だと思う。生駒の自然を活用して中小のIT企業に来てもらえるようにすれば良いのではないかと。また、巨大災害の切迫が懸念されているが、逆転の発想で、生駒市は比較的安全だという部分を押し出してPRしていけば良いのではないかと。

【中川会長】 生駒市という小さなまちの中でも地域によって特異性がある。地域の特異性も踏まえて戦略を練っていけば良いのではないかとのご意見だと思う。

【事務局】 各分野では、地域ごとに今後どうなっていくのか検討しているところもあるので、その情報や検討結果を基本計画の各小分野に反映させていきたいと思う。また、災害に強いということはSWOT分析の中でも書いており、首都圏や大阪圏のバックアップを担うというところを小分野に書くこと

を検討する。

【中川会長】 もう一点、自然環境を活かした産業開発について記載があっても良いのではないかというご意見があった。例えば、神戸市は医療産業都市を標榜し、文化資源を活かして、研究開発をする人を家族みんなで来てもらうという戦略を打ち出していた。そういうところまで重点項目のところで書き込み、そのような戦略を提案するのか検討していただきたい。

【久会長代理】 基本構想（案）の中に、データに基づいた政策立案について書かれているので、総合計画においても例外なく客観的なデータに基づく戦略づくりをしていかないといけないと思う。先ほどの話で言えば、徳島県の神山町や美波町で積極的にIT企業のサテライトオフィスを誘致して成功している。生駒市における売りが一体何なのか、感覚的にではなく、データで客観的に示し、この分野でこの方法ならば可能性があるというところまでしないと、きっちりとした計画づくりはできないと思う。

【中川会長】 第6次総合計画の策定にあたって、第5次総合計画から少し変えるというのではなく、踏み込んだ提案や逆転の発想をしていきたいというご意見でもあったと思う。先ほどの話にもあったSWOT分析をいかに次のストーリーに繋げていくかがカギだと思う。

【楠下委員】 地球環境問題の深刻化というところで、SDGsについて触れていただいていたが、これは、今後、経済活動や人口をいかに増やしていくかという取組のヒントになってくるであろうことなので、この動きを注視しながら進めていってほしい。

【中川会長】 環境先端都市といえるところまでグレードアップすると多くの人に来てもらえるかもしれない。ほかにご意見等はあるか。

【各委員】 （意見等なし）

（3）将来都市像（案）について

【中川会長】 続いて、案件（3）「将来都市像（案）について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料3-1、資料3-2について説明）

【中川会長】 この件について、ひとりずつご意見をいただきたい。

- 【高取委員】 第5次総合計画の将来都市像が十分浸透して認知されているわけではないので、変更せず引き続き使っていくことで市民への浸透を図っていくべきだと思う。言葉的にも良い表現だと思う。
- 【森岡委員】 難しい言葉を並べると、説明の必要性が出てくるので、なるべくシンプルなものが良いのではないかと思う。例えば、「あなたの暮らしがみつかるまち」や「やさしいまち いこま」がすっきりしていて良いのではないかと思う。
- 【福谷委員】 同じくできるだけシンプルなものが良いと思い、「助け合いのまち・生駒」、「やさしいまち・生駒」というものを提案させていただいた。シンプルなものを長く使って浸透させていくことが大事だと思う。また、「絆で結ぶ共生の街 いこま」も良いのではないかと思った。
- 【中谷委員】 第5次総合計画の取組が進み、ある程度成果も出ている中で一生懸命市民が創ってきたまちを誇っても良いのではないかと思い、「市民が誇るぬくもりと活力あふれるまち・生駒」を提案させていただいた。
- 【楠下委員】 事務局案の「共に創る 彩りあふれる未来 百年続く住みよいまち いこま」を少し変えて「共に創る 彩りあふれる未来への住宅都市」が良いのではないかと思う。「彩りあふれる」の部分にライフスタイルや仕事の仕方などが変わる中、それらを楽しむという生活感が感じられて良いのではないか。
- 【吉田委員】 いろいろな案を検討して、第5次総合計画の将来都市像が一番的を射ていると思ったので、変更しなくて良いのではないかと思う。
- 【村上委員】 シンプルなものが良いなと思ったのと、これからの高齢化社会を若いも若きも助け合って生きていきたいという思いから「絆で結ぶ共生の街 いこま」を提案させていただいた。
- 【中山委員】 自分の住んでいるまちで助け合って生きていきたいので「絆で結ぶ共生の街 いこま」が良いと思う。
- 【藤尾委員】 市民自治の活動をしているが、これからは市全体ではなく、自治会単位や3つか4つの自治会単位で問題解決を図っていく必要があると感じている。今の将来都市像も良いと思うが、もし変えるならば、「住民主導のまちづくり。手をとりささえあう市民自治を目指します」が良いのでは

ないかと思った。

【谷中委員】 どれもよく考えてあると思うが、良い言葉過ぎて現実味が少ないように思う。もっと直接的で泥臭い言葉であっても良いのではないかと思う。

【久会長代理】 茨木市の「ほっといばらき もっと、ずっと」と尼崎市の「ひと咲きまち咲き あまがさき」というものが、韻を踏んでいて記憶しやすく唱えやすい。できればこのような言葉が見つければいいと思うが、今の「市民が創る ぬくもりと活力あふれるまち・生駒」もとても良いと思う。誰がどんなまちを創るかが、市民がやさしく元気のあるまちを創るということで明確になっている。もし変えてしまうと、10年後にまた変えるのかという話になってしまうので、もう少し長く使って磨きをかけても良いのではないかと思う。

【中川会長】 今の将来都市像から変更しないというご意見も多数ありました。

【久会長代理】 尼崎市の場合は、将来都市像ではなく、計画そのものを表している。計画ができたときにタイトルを付けずに、半年間見てもらった上で、市民公募をしてこれに相応しいタイトルを決めてもらった。最初に決めてしまうのではなく、議論したあとで、これを一言で表すものを決めるというのもひとつの方法だと思う。

【中川会長】 それもひとつの検討材料だと思う。今回のご意見をお聞きして、再度事務局から何点か提案してもらいたい。

(4) 基本構想(素案)・基本計画 序編(骨子案)について

【中川会長】 続いて、案件4「基本構想(素案)・基本計画 序編(骨子案)について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料4-1、資料4-2、資料4-3について説明)

【中川会長】 この件については、今後基本計画の原案として出てくるのでその時に気付くこともあると思うが、今の時点で何かご意見等はあるか。

【森岡委員】 気になることとしては、財政が厳しい中、職員数が減らされ、職員の覇気がなくなっているように感じる。最近では人事異動で全く経験したことのない部署に異動する職員もいるだろう。引継ぎを効果的に行うために、できるだけデータベースをつくる必要があるのではないかと思う。データ

化をするということを職員に示すことが必要だと思う。

【中川会長】 「職員・行政組織」、「財政・ファシリティマネジメント」、「行政経営」あたりで反映させていけないのではないか。職員を行政改革の対象として締め上げてばかりでは疲弊してしまう。なにか元気づけるアイデアを盛り込んでもらえないかというご意見だと思う。

【久部会長】 今回の小分野案では「情報」が消えている。オープンデータに関することはどこの小分野に入るのか。

【事務局】 元々1-1-2「情報提供・情報公開」を5-2-1「都市魅力創造」に組み込むことを想定している。

【久会長代理】 生駒市に限ったことではないが、情報化社会になってきているわりには、市役所の情報政策が弱いのではないかと考えている。これからは、情報政策と人事あるいは職員研修が両輪になっていかなければならない。情報政策は「都市魅力創造」のひとつの柱であることは間違いないが、情報化社会への対応という意味では情報がひとつの分野として上がってくるべきだと思う。

【中川会長】 具体的には、広報広聴課が主担当課の「情報提供・情報公開」がなくなっている。広報広聴課がなくなったということか。

【事務局】 広報広聴課はそのままで、情報政策課が二つに分裂し、それぞれ総務課といこまの魅力創造課に吸収された。

【中川会長】 1-1-2「情報提供・情報公開」が5-2-1「都市魅力創造」にシフトするというのはどういう意味か。

【事務局】 情報政策課のオープンデータを所管していた係の一部の業務をいこまの魅力創造課に移管し、データを活用した魅力発信を推進するという趣旨で組織改編を行った。それ以外の情報システムの関係は総務部に残っている。

【久会長代理】 統計を担当する係はどこにあるのか。

【事務局】 総務課の中にある情報統計係。

【久会長代理】 その考えは、まだまだアンケートを集計する係という位置づけになっている。そうではなくもっと情報を分析して政策に活かせるデータを出す、あるいは、市役所が持っているデータを分析して戦略づくりに反映させて

いく役割が必要だと思う。行政内情報を上手く活用すれば面白いことができるはずだ。そういう発想がないから、課の配置が換わって小分野もなくなってしまっているのではないかと思う。

【森岡委員】 ひとりひとりの仕事をデータ化することによって、誰が見てもわかるようになり、報告を求められたときに簡単に数値を報告することができる。更に言えば、皆が見れるようにすれば報告する必要もなくなってくる。データ化で無駄を省くことによって職員の仕事も楽になるのではないか。

【久会長代理】 今はAIの時代になってきているので、市役所の仕事や市民協働の中にAI技術をいかに組み込めるかという先端的なことを考えるということも必要だと思う。そこも含めて「情報」が消えてしまうことは、いかがなものかと思う。

【事務局】 経営的施策の部分で情報戦略的なところをもう少し盛り込むように、小分野を新たに作るのかを含めて事務局で検討したいと思う。また、AI技術が進み、今までの当たり前が当たり前でなくなっていく中で、どういう職員が求められるかを含めて書き方を検討していきたい。データを活用した政策立案については、必要性を感じているところなので、基本構想の理念に書き込むことによって、進行管理の仕組みと同じように、全庁的に広めていきたいと思う。

【中川会長】 第5次総合計画後期基本計画では、シティプロモーション、PRサイト公式フェイスブックの運用、市のPR動画の映画館CM上映事業がそのまま5-2-1に移っており、これらが情報政策だという解釈だったが、ビッグデータを含めた集積されたデータを用いた新たな政策立案に繋げていくような機能が必要なのではないかということ。情報政策を今回の計画でどのように立体化していくか再度検討していきたい。

【事務局】 行政組織の再編に伴う影響を加味して作ってしまっており、ご指摘のとおりだと思う。小分野の構成は再度検討する。

【中川会長】 小学校区における人口動態や平均所得、就業者人口、犯罪発生統計、放火・失火件数などを整理すれば地域の実態が一目瞭然になる。このようなデータが住民側に提供されるシステムはいつになったら完成するのか。また、それらが全て統計担当の仕事になるのかどうかも考えないといけな

い。他市では情報による支援のところまでできているので、なおさら情報政策の広がりが見えないことに不安を感じる。他にご意見ご質問はありますか。

【久会長代理】 基本計画の見直しの際には、基本構想も見直す必要があるのかどうかといったことも含めて議論するのか。

【事務局】 中間の10年程度でマイナーチェンジの必要性について検討する必要があると考えている。

【久会長代理】 そのことは書いておかないと、引継ぎのときにわからなくなってしまう。概ね10年ごとに評価するといった一文を書いておいたほうが良い。

【事務局】 4年ごとの計画なので、8年もしくは12年の区切りで評価するという記載を考えたい。

【中川会長】 一般的に言えば、前期後期の区切りでは基本構想は変えないのがルールだと思うが、後期の見直しの際に基本構想まで見直すと捉えられないかといった危惧もある。

【森岡委員】 日常からデータに落とし込んでいくことによって、新たに報告書を作成する必要がない形にしておく、報告書を作るときに再度入力するといった二度手間をなくすことができる。市民にだけ頑張りましょうというのではなく、まずは職員が頑張らないといけないと思う。

【中川会長】 評価指標も日常の日報と連動するように切り替えたほうが良いとのこと。アウトカムに繋がるアウトプット指標をすることに抵抗はないので、できるだけ労力をかけずに把握できる評価指標を設定していただきたい。

【久会長代理】 分野の再編については、再度、次回の会議で確認するのか。

【事務局】 はい。次回の全体会で中分野と小分野の事務局案をお示ししたいと思っている。

【中谷委員】 庁内すべての課が関わる必要があると思うが、ここではすべて網羅されていないように思う。

【事務局】 メインの担当課とサブの担当課があり、ここではメインの担当課のみ書かせていただいている。

【中川会長】 他にご意見ご質問はあるか。

【各委員】 (意見等なし)

【中川 会長】 本日いただいたご意見を踏まえて、事務局で整理していただいたうえで、資料として提示してもらいたい。資料4－3については、大分野については了承だが、小分野については再度精査が必要だということ。本日の会議の案件は終了しました。ほかに事務局から連絡事項はあるか。

【事務局】 (事務連絡)

【中川 会長】 これをもって第2回生駒市総合計画審議会を終了します。

— 了 —